

— 弥生会計を利用した学習について —

テキストを利用して 学ぶ際の注意点【応用】

対象： **応用**

『コンピュータ会計 応用テキスト』（以降、テキストと表記）の構成や特徴を詳説して、効率の良い学び方を説明しています。ぜひ、学習を開始する前に一読することをお勧めします。

なお、テキストは、弥生株式会社の財務会計ソフト「弥生会計 プロフェッショナル」を利用しながら学習を進めます。学習者のコンピュータに「弥生会計 プロフェッショナル」がインストールされている必要があります。

弥生株式会社のホームページには、「弥生会計 25 プロフェッショナル学習用体験版」とテキストで使用する「学習用データ」が用意されているのでダウンロードしてください。

目次

1. テキストの特徴	1
2. テキストの構成	1
3. 学習の内容と進め方(各章)	
第1章 個別論点と年次決算	3
第2章 会計データの新規作成(導入処理)	3
第3章 製造業における原価情報	4
第4章 予算管理と経営分析指標	4
第5章 収益(損益)構造分析と短期利益計画	4
第6章 短期利益計画と予算管理(進んだ学習)	5
第7章 資金計算	5
第8章 基幹業務の管理システム	5
4. 今後の学習の進め方	6

1. テキストの特徴

このテキストは、財務会計ソフト「弥生会計」を利用しながら実務会計の応用知識と「弥生会計」の使い方を学ぶために編集されています。

入力練習する際には、「学習用データ」が用意されているので復元して利用してください。なお、実務会計の基礎知識と「弥生会計」の基本的な使い方は、『コンピュータ会計 基本テキスト』を参照してください。

本シリーズは、複式簿記の原理である記帳技術と集計手続、そして財務諸表作成技術の学びは、弥生会計を利用することで圧縮して、弥生会計の入力と集計された会計情報を読み取るスキルを学びます。

このテキストは、弥生会計の分析機能も活用しながら会計情報を活用することに重点をおくとともに、実務会計に役立つ知識とスキルを身につけるために編集されています。

2. テキストの構成

このテキストは、1章では、固定資産の種類や減価償却の手続き、リース取引、そして、消費税の基礎知識と計算、会計処理の概要を知識ベースで学ぶとともに、弥生会計での処理方法を確認します。また、年次決算を理解するために決算整理事項と決算処理の手続を学びます。

2章では、弥生会計において、事業所データの初期設定を学びます。実際に弥生会計を操作しながら、基本情報・消費税処理の設定、開始残高の入力を学びます。次に、証ひょう類から日常処理を経て年次決算整理、年次決算手続を確認します。日常処理では消費税対象外取引なども含まれており、決算手続では消費税の清算処理、法人税の未払計上なども含まれています。最後に、弥生会計の繰越処理を理解して次年度に繰り越します。また、弥生会計の部門設定を理解して応用力を身につけるため、練習問題が用意されています。

3章では、製造業の経営活動を理解して製造部門を有する企業の会計処理を行うために必要な知識を学びます。そのうえで、製造原価報告書や製品売上原価の算定など、製造業に特有な決算処理、財務諸表の数値を理解します。同時に、弥生会計における設定や入力処理について例題を解きながら学びます。

4章では、経営分析指標の意味を学んだうえで、財務構造分析の基本的な計算方法を知識ベースで確認し、次に弥生会計を利用して求める操作方法を理解します。重要なことは、算定するための計算式や算定する数値ではなく、財務諸表における指標の関連性や企業実体を把握するスキルを身につけることです。

5章では、短期利益計画の策定スキルを身につけるために、収益（損益）構造分析を学びます。収益構造を理解するために損益分岐点分析からアプローチして、第6章の短期利益計画の策定と予算管理の学びにつなげていきます。

6章では、5章での理解を踏まえて、予算編成や予算管理の基礎知識を学び、短期的な利益予測や費用予測の考え方を理解します。月次損益予算の予算実績分析では、決算書ベースだけではなく、収益構造分析の視点からもアプローチすることの重要性を学びます。最後に、弥生会計を利用した予算管理の設定を確認します。

7章では、資金計算と損益計算の違いを確認したうえで、3区分式の資金繰り表の作成と資金増減原因分析を学び、キャッシュ・フロー計算書の理解に展開します。最後に、弥生会計による資金計画の設定方法を確認して、売掛金・買掛金の管理の考え方と弥生会計ソフトによる売掛金回収予定表の作成を確認します。

8章では、基幹業務の管理システムの概要を理解したうえで、預金出納業務・購買業務と販売業務・給与計算業務に関する管理システムについて理解します。

このテキストには、応用問題集(PDF)がWebページに用意されているので、ぜひ活用してください。この応用問題集は、公益社団法人全国経理教育協会や日本商工会議所が主催する弥生会計を利用した検定試験に配慮して編集されています。習熟度確認を含めて受験されることを推奨します。

なお、税理士や公認会計士を目指す人は、現在(2025年度)の試験に会計ソフトを利用した出題はないので、簿記学や会計学の学びを優先することをお勧めします。

3. 学習の内容と進め方 (各章)

各章では、各テーマの概要や必要な知識を最小限で説明したうえで、例題を利用して「弥生会計」の設定や入力練習、操作方法の確認を行う構成になっています。

さらに、固定資産の償却処理や消費税の学習項目では、必要に応じて税務知識を説明しています。また、このテキストは、財務会計分野だけではなく、管理会計分野、資金会計分野にも学びを広げ、企業実務において求められる知識やスキルの習得を目指しています。

学習者におかれては、会計処理や年次決算、利益計画策定や資金計画を行うための知識を学んだうえで、実際の実務処理に近い例題を通して理解を深めて戴きたいと願っています。

●第1章 個別論点と年次決算

第1章は、個別論点の知識を学ぶ位置づけになっています。実務処理では、固定資産の減価償却費の手続きと償却処理を習得する必要があります。中小企業者の税法上の特例も説明してあります。また、弥生会計による固定資産管理の設定も確認します。

年次決算は、本章の学習項目です。年次の決算整理手続きを学び、入力仕訳を確認してください。また、消費税の知識と会計処理について取りあげています。適格請求書等保存方式やインボイスについては、『コンピュータ会計 基本テキスト』を参照するか、学習支援コンテンツの消費税項目を確認してください。また、未経過勘定科目についても説明を加えています。詳しい処理は、消費税同様に『コンピュータ会計 基本テキスト』を参照してください。

なお、年次決算手続きは、第2章の入力練習で実際に弥生会計に入力しながら確認することができます。

●第2章 会計データの新規作成(導入処理)

第2章は、企業の基本情報、消費税処理を設定したうえで、開始残高を入力します。導入時期によっていくつかの方法がありますので確認してください。

テキストでは、期中導入の事例で説明されています。期首から導入先の前月までの取引の累計額を導入前月の取引として振替伝票から入力します。消費税の設定は、「税抜経理方式」「内税」入力に設定するので、損益計算書項目の入力では課税売上と課税仕入に該当する取引は、税計算区分を「別記」を選択して入力します。(テキストP57参照)

P58からの例題によって日次取引の入力処理、年次決算処理前の残高チェックを経て決算整理事項と決算手続きを確認します。その後、弥生会計における繰越処理を確認します。

実務会計の練習として、日次処理と年次決算、そして、繰越処理を経て翌期の取引を入力する練習問題と部門設定を含めた初期設定の練習問題が用意されています。各練習問題を行うことで習熟度確認ができるように編集されています。

●第3章 製造業における原価情報

第3章は、製造部門を有する企業の会計処理を学び、製造原価報告書と製品売上原価の算定について習得します。そのために、まずは、製造業の経営活動と原価要素の分類や原価計算の基本知識を確認します。製品を製造するために投入された製造費用が製造過程を経てどのように損益計算書の売上高と対応されるのかを理解する必要があります。

また、弥生会計で製造原価に関する科目を使用する場合の入力処理や製造業における月次決算処理を学びます。

テキストP138の例題は、日本商工会議所主催「電子会計実務検定試験2級」の出題傾向を踏まえて作問した問題です。習熟度確認に利用してください。

●第4章 予算管理と経営分析指標

第4章は、中期・短期の経営計画策定に必要な知識・スキルの習得にあたり、スタートの章に位置づけられています。つまり、本章で財務構造の分析を理解し、5章で収益構造の分析、6章では予算管理の基礎知識と利益予測、そして、7章で資金計画を学びます。

各章を単独の学習項目と位置づけるのではなく、特に短期の利益計画（実行計画）を策定して実行して評価・分析する視点で学びを進めてください。

本章では、決算書をベースに財務指標の意味を理解して、企業の実態を把握し分析する基本を学びます。弥生会計を利用して分析数値を求める方法も説明しています。単に、分析数値を求めることに終わることなく、企業実体の把握と戦略立案につなげる視点を大切にしてください。

●第5章 収益(損益)構造分析と短期利益計画

5章は、収益構造の分析を学びます。収益構造を理解するために損益分岐点分析からアプローチします。また、図解では、損益分岐点図表だけでなく、貢献利益図表も説明しています。一般的には損益分岐点図表が広く利用されていますが、利益計画策定には貢献利益図表のイメージを活用することを推奨します。

弥生会計による損益分岐点分析の手順も説明しています。弥生会計では、売上高や目標利益を設定したシミュレーション機能も備わっており、応用問題集で理解を深めてください。

最後に、損益分岐点分析の公式に触れていますが、公式を理解するのではなく、その考え方を習得することが大切です。

この章で、管理会計分野における利益計画策定に必要なアプローチを習得したうえで、第6章の予算管理の学びにつなげてください。

なお、公益社団法人 全国経理教育協会の「コンピュータ会計能力検定試験2級」では、会計ソフトを利用した財務構造分析や収益構造分析の出題があります。この章を理解することで受験に必要な知識を学ぶことができます。

●第6章 短期利益計画と予算管理(進んだ学習)

第6章は、予算管理と予算統制が学習項目です。特に、損益予算の概要を理解して利益予測の考え方を学びます。さらに、月次損益予算の編成と予算実績差異分析の学びが重要です。損益計算ベースで集計された月次決算書を管理会計分野に属する収益構造分析の視点からより広い視野で予算・実績の差分を把握するスキルを習得してください。テキストP206では、PDCAサイクルの応用例として月次決算書の分析を取りあげています。

最後に、弥生会計による予算管理の設定を説明しているので、予算実績対比表も会計ソフトから出力できることを知ってください。

●第7章 資金計算

第7章は、資金繰り表の作成を通して資金計画の考え方を学びます。2区分式を経て3区分式の資金繰り表の作成を理解します。また、資金増減原因の分析を学ぶことでキャッシュ・フロー計算書を理解することに役立ちます。

資金計算は、結果を集計して分析することも大切ですが、次月以降の見積もり資金繰り表の作成が重要であり、過去集計からの分析と未来予想の資金計画の視点から学びを進めてください。

資金計画のもっとも重要な売掛金と買掛金の管理について学びを進め、弥生会計を利用した売掛金回収予定表や資金計画の設定についても説明しています。現預金の収支と残高を把握するための資金繰り資料の作成や見積もり実績対比表も参考にしてください。

最後に、キャッシュ・フロー計算書の仕組みとキャッシュ・フロー分析の考え方も取りあげています。

以上のように、4章から7章までの基本的な知識とスキルを学ぶことで、利益計画の基本的な考え方と弥生会計の活用方法を習得できるものと考えます。公式を暗記したり、会計ソフトの操作を理解したり、設問を解くということではなく、学びを通して皆さんの経営感覚や感性を高めることが戦略立案に役立つと期待しています。

●第8章 基幹業務の管理システム

第8章は、企業における基幹業務と管理システムの概要を説明しています。会計系の業務に関係する管理システム、購買業務と販売業務の管理システム、そして、給与計算業務の管理システムを紹介しています。実際の企業では、どのようなシステムにより基幹業務が行われているのかを理解しましょう。

4. 今後の学習の進め方

以上のように、応用テキストでは、会計ソフトを利用しながら基本情報や消費税の設定方法や企業の年次決算手続き、製造業の会計処理と製造原価報告書の理解、そして、短期利益計画策定に必要な知識・スキルとして業績評価指標と財務分析・損益分岐点分析や資金繰り表・キャッシュ・フロー計算書の理解を経て、短期利益計画立案の考え方を学びます。

このテキストには、学習項目が対応している「応用問題集」が用意されています。無料でダウンロードすることができるので、ぜひ、習熟度確認のために活用してください。また、公益社団法人全国経理教育協会主催の「コンピュータ会計能力検定試験や日本商工会議所主催の電子会計検定試験があるのでチャレンジすることを推奨します。

なお、このテキストのシリーズでは、インボイス制度の運用事例は割愛しています。今後、補足資料などによりご提供していく予定です。

最後に、財務分析も損益分岐点分析も会計ソフトから情報を得ることができるので、その公式などを暗記する必要はなく、その会計情報をどのように活用できるのかという経営感覚とその感性を身につけ、事業戦略立案の基礎力を習得されることを期待します。

今後、会計ソフトのデータ入力は今まで以上に自動化されます。会計ソフトはあくまでも道具であり、その操作方法はますます簡素化されます。

財務諸表(決算書)を読む知識、会計情報を活用するスキルの習得に重点をおいて感性を高めるための学習を進めてください。

本書が皆さんの社会人基礎力の向上や経営数値の分析力アップ、そして、事業戦略立案の基礎知識の習得に役立てば幸いです。